

札幌市内に障害福祉サービス9カ所と障害者向け住宅を展開するHOPは、スヌーズレンと音楽のコラボレーションイベントを、同法人運営のSora(札幌市西区)で開催。利用



3月に開かれたイベントに障害者、地域住民ら大勢が足を運んだ

クローズアップ

HOP・Sora

—札幌市西区

者や家族、地域住民ら60人余りが参加した。スヌーズレンは治療法等ではなく、障害を持つ人と家族・介助者が心地良い時間と空間を共有するオランダ発祥の活動と理念。専用の機器を使って光、音、香

共生まちづくりにもスヌーズレン活用

り、振動、温度、触覚などの感覚を組み合わせたさまざまな効果を演出し、重症心身障害者も健常者もそれぞれのペースで楽しめる。ヨーロッパでは認知症、精神疾患ほか幼稚園、まちのコミュニケーションセンターなどでも活用され、多様な人が心地良い時間を共有する場として広がりを見せ、国内でも注目され始めています。Soraは生活介護、放課後等デイ・児童発声をも、音楽には「は」と考え、イベントを企画。障害事業所をもつと地域に開放し、気軽に交流できる場として、多様な人が交流できる企画ができれば」と展望。共生



も取り入れており、利用者の五感に働きかける効果を実感。普段はさまざまなことに興味を示さなくても、音楽には声も、音楽には安全な環境で、プロやアーティストも参加する。P.O.法人「和・ハーモニ」音楽療法研究会が楽器演奏を披露する中、スヌーズレンの光が放つ色や模様、空間演出が加わり、参加者それぞれが五感を満たしたイベントとなったようだ。

大石管理者は「今後スヌーズレンを活用する中で、多様な人が交流できる企画ができれば」と展望。共生の可能性も広がります。